

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト 実施報告書

報告日	平成 27 年 3 月 17 日
主管学校名	大阪教育大学附属幼稚園
P T A 会長名	堀内 俊宏

実施概要	主管校	大阪教育大学附属幼稚園
	交流校	大阪教育大学附属特別支援学校
	実施活動名	1) サツマイモの苗つけ 2) タベのつどい 3) ふようバザー 4) 教養講座 5) サツマイモの収穫 6) クラブ発表会
	実施日時	1) 平成 26 年 5 月 13 日 「サツマイモの苗つけ」 2) 7 月 19 日 「特別支援学校 P T A 主催 タベのつどい」 3) 9 月 13 日 「特別支援学校 P T A 主催 ふようバザー」 4) 9 月 17 日 「幼稚園 P T A 主催 特別支援学校保護者を招き教養講座」を開催 5) 11 月 11 日 「春に苗つけをしたサツマイモの収穫」 6) 平成 27 年 2 月 9 日 「幼稚園 P T A によるクラブ発表会」
	実施場所	1) と 5) 大阪教育大学柏原キャンパス内 特別支援学校畑 2) と 3) と 6) 大阪教育大学特別支援学校 4) 大阪教育大学附属幼稚園 遊戯室
	実施目的	本園 P T A 活動のひとつとして、特別支援学校生徒と P T A 保護者との交流活動を通じ、相互の理解と親睦を深める。
	実施内容	1) 特別支援学校高等部の生徒から指導をうけ、園児とその保護者がサツマイモの苗つけを実施。 2) 特別支援学校 P T A 主催夏祭り「タベのつどい」に園児とその保護者が参加。 3) 特別支援学校 P T A 主催「ふようバザー展」への出品物を幼稚園保護者からも募集し提供。 4) 教養講座開催 特別支援学校保護者を講師に招き、子育てについてご講話いただく。 5) 特別支援学校高等部の生徒から指導をうけ、園児がサツマイモの収穫を実施。 6) 幼稚園 P T A クラブが特別支援学校にてクラブ発表を実施。
	実施方法	1) 両校園の先生方で事前に打ち合わせと準備をしていただき、遠足で年長園児、年長保護者が一緒に畑へ訪問し特別支援学校生徒と畑作業をする。 2) 特別支援学校 P T A よりご招待をいただき、幼稚園内にて行事を告知し、参加。 3) 特別支援学校 P T A よりご依頼をいただき、幼稚園内にて物品収集を実施し提供。 4) 幼稚園 P T A から特別支援学校 P T A 会長へ教養講座の開催をお願いし、両校園の副校園長にて相談、決定いただく。その後は幼稚園 P T A 保護者が、講演会場等を準備。 5) 両校園の先生方で事前に打ち合わせと準備をしていただき、遠足で年長園児が畑へ訪問し、特別支援学校生徒に方法を教えていただき、共に収穫作業をする。 6) 幼稚園 P T A クラブ所属者が、クラブ発表内容を思案し、特別支援学校にて生徒の前で披露する。
参加人数	在園児、在園児の保護者約 150 人	

	内容	<ol style="list-style-type: none"> 1) 現地へ親子遠足で訪問し、親子で特別支援学校高等部の生徒からサツマイモの苗つけ方法を教わりながら、一緒に苗つけを行う。園児から、秋の収穫まで苗のお世話を生徒にお願いをした。 2) 特別支援学校PTAより誘いがあり、都合のつく家庭は園児を連れて参加した。生徒が運営するお店（スーパーボールすくいなど）で楽しく遊び、また、演舞や花火も堪能させていただいた。 3) 特別支援学校PTAからの依頼により、バザー商品の物品提供を実施。お手紙を配布し、幼稚園内に収集場所を設置し、一定期間内にて募集し、提供。 4) 両校園の副校長及びPTA会長が事前打ち合わせをし、日時と講師（特別支援学校保護者）を決定。その後の打ち合わせは、幼稚園PTA保護者が行い講演詳細を決定。幼稚園遊戯室にて約150人の保護者を対象に講演いただく。講演後は保護者アンケートを実施し、集約したものと礼状を共に特別支援学校へお渡しした。 5) 春に苗つけたサツマイモの収穫を実施。園児のみが先生と遠足で畑へ訪問し、特別支援学校の生徒から収穫方法を教わる。収穫した芋を持ち帰り、家庭にて調理し、保護者は園児よりその日の様子を聞いたりする。 6) 幼稚園PTAクラブ所属保護者にて、事前にクラブ発表会に向けた内容を思考し、練習した内容を特別支援学校にて生徒の前で披露。音楽、おはなし、マジッククラブ等が参加。毎年工夫を重ねた内容で発表。
報告事項	結果	<ol style="list-style-type: none"> 1) 園児と保護者が、特別支援学校の生徒さんたちと、畑仕事の共同作業をすることで、会話がしやすく、触れ合いが深まった。子どもたちは苗つけや水やりの方法をお兄さんお姉さんに優しく教えてもらったことで、とても親しみをもち、秋を心待ちにしていた。 2) ご招待いただいたので、保護者が園児を連れて参加しました。子どもたちは、親しみやすいスーパーボールすくいや、絵札つりなどで何度もお店番の生徒とやり取りを繰り返し、楽しんだ後には、演舞の公演や花火大会もあり、存分に夏祭りを満喫させていただいた。 3) 幼稚園でもバザー出品商品を集め、特別支援学校へ物品提供することで、園全体への告知もスムーズで、興味をもたれた方が多くバザーへ参加しました。特別支援学校内へ訪問しふれあうよいきっかけであると思った。 4) 特別支援学校PTA保護者から、子育てについての講話をいただく事で、子どもに対する親の想いを見つめ、様々な面を考える機会にもつながるように感じた。 5) 待ちに待ったサツマイモの収穫だった。しゃもじを使って優しく掘り起こすよう、特別支援学校の生徒さんに教えてもらったり、お手伝いいただいたりした。 6) 音楽クラブ、おはなしクラブ、マジッククラブで訪問しました。それぞれの演目で発表しました。音楽クラブの「アナと雪の女王」では、生徒さんも大きな声と一緒に歌って参加いただき素敵な時間を過ごせた。
	所感	<p>どの活動も、特別支援学校との交流を広げるよい機会となっております。今後も続けて活動したい行事ばかりです。お互いがより理解するには、様々な触れ合い方が必要となると思います。</p>

添付書類	<p>一部活動の写真を添付致します。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
------	--



カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日	平成27年3月17日		
学校名	大阪教育大学附属幼稚園		
学年	年長	氏名	

活動に参加しての感想

- ・お芋を植える事が楽しかったです。おにいちゃん、おねえちゃんに手伝ってもらってうれしかったです。またしたいです。
- ・土をパンパンして楽しかった。お兄ちゃん達が、水やりしてくれるのかな？また秋が楽しみ。
- ・とても楽しかった。
- ・「おにいちゃん、水お願いします」と呼んだら来てくれてうれしかった。
- ・おにいちゃんがかっこよかった。
- ・もっと、おはなしがしたかった。
- ・おにいさん、おねえさんがやさしくて、うれしかった。
- ・おにいちゃん、おねえちゃんが一杯がんばってくれてたわ。
- ・お兄さんが土をいれてくれて、ありがとう と思った。
- ・とってもおおきなお芋を、おにいちゃんと掘ったよ！
- ・おにいさんが手伝ってくれたけど、全然みつからなくて、、だけど、おにいさんが一生懸命探してくれて、うれしかった。みんなで探したらみつけて、とれてよかった。
- ・おにいちゃんが掘った芋が折れて、おもしろかった。
- ・お世話してくれてありがとう。
- ・おにいちゃんおねえちゃんに、教えてもらって、一生懸命ほったけど、小さいやつしか掘れなかった。けど楽しかったよ。
- ・春の苗つけを欠席していた子が、自分のお芋はないのではないかと心配している所に、特別支援のお兄さんお姉さんが一緒に掘ろうと誘ってくれたので、とっても嬉しく楽しかった。行って良かった。
- ・おにいちゃんおねえちゃんが、手伝ってくれて助かった。また芋ほりにいきたいな。

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日	平成27年3月17日
学校名	大阪教育大学附属幼稚園
氏名	

- ・とても自然に交流ができ、親子共に良い経験をさせていただきました。
- ・親になるまで障害のある方と接する機会が少なく、詳しく知る事ありませんでしたが親になり、地域の中で障害のある子どもさんと接する事が増え、個人的に考える場が増えたと思います。
共に生きる為には、お互いが理解しなければいけない事が多くあると思います。
ということはふれあい、共に活動する事が大切で、短い間でも親子で参加できたことをうれしく思います。
- ・特別支援の生徒さんたちがとても親切で、とてもたのもしく、子どもたちに接していただき、お互いを知る意義のある交流だと思えます。
- ・子どもたちが楽しそうに苗つけできたのは、特別支援の方々が丁寧でしっかりした準備をしてくださったからだ、本当に感謝しております。
子どもたちの為に大変な作業を一生懸命されていた姿が、忘れられません。
もっとたくさん交流の場が増える事を望んでおります。ありがとうございました。
- ・もっと触れ合う機会を増やしてほしいです。
- ・この年代から交流することで、子どもたちの中で理解が深まる、とても良い機会だと思います。
少しずつ相互理解が深めていければと思います。
- ・子育てにおいて、親の愛情は底知れぬものだと、工夫は尽きないものだと、考えさせられました。他人がなんと言おうと親の子に対する想いは、特別なもので、尊い愛情であると、断ち切れぬ絆であると、一生支えていくものであると。
「子育て」に個人差はあるものの、やはり原点は同じであり、だれもが悩み立ち止まる事がありますが、一人で悩まず、相談することも大事であると思いました。
- ・全く自分が無知であったと知りました。無関心であるつもりではなかったのですが、あまりにも無知であったと思いました。
とはいえ、触れ合う機会も、理解する機会もどう持てばよいのかもわかりません。
- ・クラブ発表したことで、特別支援学校の生徒さんたちの笑顔を見る事ができて、とてもうれしかった。
- ・一緒に歌うことができ、楽しくなった。立ち上がって楽しそうに歌ってもらえると、やってよかったと思った。
- ・音楽を通じて触れ合う事で、共通の楽しい時間がもて、とても有意義でした。今後も続けていきたいと思えます。